

湘友会報



湘南高等学校湘友会事務所
 <月・水・金 13:00 - 16:00 在室>
 〒251-0053
 藤沢市本町3-1-3 湘南ビル301
 電話・FAX 0466-50-0386
 shoyukai@cityfujisawa.ne.jp
 http://www.shoyukai.org

資料館(仮称)は こんなイメージ

湘南高校資料館は、清明会館の1階に設置されます。校舎正面玄関の右手奥にガラス張りの壁面を通して、資料館の内部が見えます。卒業生には訪れ易い位置で、在校生にとっても食堂やプールへの通路上にあり、定時制の生徒にも昇降口に間近く親しみやすい位置です。

資料館は、湘友会会員の寄付金で建設され、原則的には学校が管理責任を負いますが、実質的な運営は湘友会事務局で担うことになります。従って学校と湘友会が協働したさまざまな活用による新しい展開が可能になります。

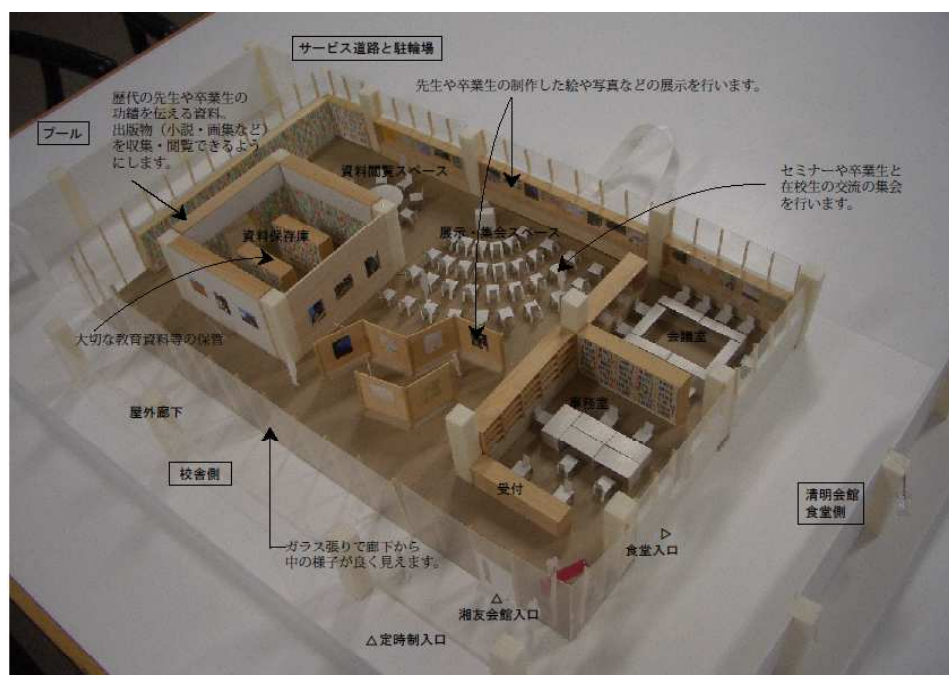
資料館は、展示・集会等の多目的スペース、文献資料コーナー、会議室、事務室からなり、多目的スペースは、ガラス壁面を通して外からも内部の催しが見えるようになっています。ここでは、湘南高校や湘友会に寄贈された卒業生の絵画等の展示や、学校にゆかりのある催しや展示が常時行われることになるでしょう。また、各界で活躍する卒業生が、在校生のキャリア形

成を支援するための講演会やセミナー、湘友会による新入生への校史教育、湘友会の各種会合なども盛んに行われることになると考えられます。

文献資料コーナーには、湘南中学・高校の教育を中心に日本の中等教育に関するさまざまな資料、学園生活や湘友会の活動資料、先生や卒業生の著作物・出版物等を収集して展示し、自由に閲覧できるようにします。卒業生にとっては懐かしい学園生活を思い出し、在校生にとっては先輩の事蹟に触れて将来への夢を膨らませたり、湘南出身の誇りを共有する場になるでしょう。

会議室、事務室は、湘友会のさまざまな活動の拠点として、事務局だけでなく湘友会会員の大小の打ち合わせの場としても活用したいと思います。

この他、湘友会会員の皆様のさまざまな活用アイデアを募り、資料館が卒業生・在校生双方にとって実り多い交流の場となっていくことを期待します。



ご寄付くださった方々のご芳名を資料館内の
 銘板に刻し、末永く顕彰させていただきます。

多くの皆様のご協力で建設できる資料館を、会員皆で活用してこそ、
 湘友会活動がさらに活発化する道だと思います。(会長談)

湘友会会員の皆様へ

湘友会会長 田辺 克彦



平素は湘友会活動にご理解を頂き、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

既に重ねてご連絡させて頂いておりますとおり、湘友会では、昨年秋から母校の創立

90周年記念事業の一環として、校史資料館（仮称）建設のための募金活動を行っております。お陰様でこの3月末までに、約2500名の会員の皆様から約6780万円のご寄付を頂くことができました。誠にありがとうございました。ここに改めて御礼申し上げます。

この資料館建設の趣旨は、募金趣意書にも記載してありますように、単に母校の教育資料や卒業生の著作物を保存・展示するだけのものではありません。私共湘友会では、母校の文武両道の伝統を現在および将来の在校生に承継して行ってもらいたいと念じていますが、そのためには、卒業生が在校生と頻りに交流できる場所が必要です。そこで、卒業生が母校に気軽に立ち寄れるよう、湘友会の事務所も館内に移し、湘友会の委員会も、種々のセミナーもこの中で行うようにしたいと思います。このように、この資料館は展示場、資料保存場所、セミナーの会場、会議室、事務室等々とまさに多目的・多機能の建物を考えているのです。そして、卒業生と在校生との交流をより活発に行えるよう、例えば、今まで行ってきた「キャリア講演会」、「土曜講座」の回数を更に増やし、毎週土曜日にはこの資料館で卒業生や母校の元教員であった方を講師とするセミナーを開き、在校生が先輩等を囲んで親しく話を聞けるようにしたいとも考えています。このよう

にして、卒業生が多数母校に戻ってきて在校生と活発に交流してこそ、文武両道の伝統がより承継され易くなるのではないかと思います。

このような観点から、湘友会会員皆で、これからこの資料館のもっと様々な利用方法を考えて行きたいと思っています。また、資料館の名称も皆の親しみ易いものになるよう、建物完成までに公募して行きたいと考えています。

このように、湘友会が母校内に拠点を持ち、母校と密接に活動するようになるということは、同窓会が単に親睦をはかるためだけの存在ではなく、広い意味での母校の教育の一端を担う存在となることが期待される、まさに時代の要請に合致していることだと思えます。教員と父兄だけでなく、在校生にとって身近で、よい目標となりうる卒業生も、今までよりも母校の教育により多く係わっていくことが期待されています。そのために湘友会の役割が大きく変わってきていると思うのです。

以上のとおり、この資料館建設は、少し大げさに言えば、湘友会活動のシンボリック存在であり、これからの活動そのものを方向づけ、規定していくとも言えるものですので、募金の段階から出来るだけ多くの湘友会会員の方にご参加をお願いしたいと思っています。

しかし、現在までにご寄付頂いた方はまだ少なく、この点が誠に残念で、8月までの募金期間中に更に多くの方々に声をかけさせて頂きたいと存じております。

多くの湘友会会員の皆さまに募金に参加して頂いて建てた資料館を、会員皆で活用してこそ、湘友会活動が本当に活発化する道筋だと思うのです。

以上、お願いとなってしまうましたが、趣旨をご理解頂き、ご協力を心からお願いいたします。

2009年度PTA会長 藤原 新(55回)

生徒が日頃から行き来する場所にあるメリットを活かし、生徒が気楽に訪れて湘南の歴史や先輩方の活動を資料や映像で身近に感じられる場になるよう願っています。

そのために、少人数のオープン講座やキャリア講座の開催、部活動やカラーの先輩後輩の交流の場としての活用ができると思います。また、パネル等を利用してOBから生徒たちへのメッセージを、例えば月替わりで掲示すれば、生徒が先輩方の期待や思いを常を感じる機会になるのではないのでしょうか。また、OBの方を職業分野別や進学先別などに知ることができ、場合によっては相談に乗っていただけるようなサポートをいただければ、生徒たちの進学やその先の職業選択にとっても大いに役立つのではないかと思います。

OBと生徒の思いを繋げる校史資料館の完成を心待ちにしています。



キャリア・カウンセラー 蟠原(51回)

みなさま、こんにちは！
同窓会館の竣工楽しみですね。

私は、この会館には湘南高校に関わる人々の「過去・現在・未来」が詰まっているように感じています。言うなれば異なる世代や、過去の自分・未来の自分との出会いの場所。人は年齢を経ていくと世間的に「親」や「上司」や「先生」になってしまつて、特に年下世代と距離ができてしまいがち。でも同窓会館ではいつもの「肩書きやしがらみ」を捨てて裸になりましょう。そこに集った多様な人々が親しみあい、話しあい、時には討論しあい、自らと社会の明日を作っていく場であってほしいと思います。ちなみに私達が文化祭で掲げたテーマは「ホモ・ルーデンス～遊ぶ人～」です。手始めに同じクラスカラーで集まってみたらいかがでしょうか。私は「白」です。さあ、この指とまれ！みんなで一緒に遊ぼう！！（笑）



私はこんな利用を考えたい

母校への支援

キャリア講演会

学校の教育計画に基づき、生徒の将来におけるキャリア形成に役立てることを目的として、2006年度から始まりました。各学年の生徒全員を対象に、学年ごとのキャリア教育のねらいに沿って、各界で活躍している本校の卒業生による講演会を、年1回ずつ実施しています。

< 1年生 > [2010年1月18日]

講師：渡邊 あゆみ氏 (53回)

演題：「私の好きなことは？」

経歴：NHK日本語センター チーフ・アナウンサー

< 2年生 > [2009年9月28日]

講師：鈴木 啓介氏 (48回)

演題：「ナノメーターの積み木遊び」

経歴：東京工業大学大学院教授・有機合成化学

< 3年生 > [2009年6月29日]

講師：小林 敏雄氏 (35回)

演題：「第3の科学と自動車技術」

経歴：日本自動車研究所所長・日本機械学会会長
土曜講座

キャリア教育の一環として、全学年の生徒(希望者)を対象に、各界で活躍している本校の卒業生を講師として、その専門分野に係わる講話をしていただきます。

生徒のキャリア形成の一助にすることを目的として、2008年11月から始まりました。年6回実施予定です。

< 6月 >

講師：石戸谷 博範氏 (48回)

演題：「湘南の海と魚の魅力」

経歴：県水産技術センター専門研究員(定置網研究)

< 7月 >

講師：小山 良夫 氏 (42回)

演題：「国際協力をライフワークとして」

経歴：JICA 国際協力専門員(中小企業振興・地域開発)

< 10月 >

講師：古谷 浩一 氏 (60回)

演題：「朝日新聞の中国特派員として過ごした8年間」

経歴：朝日新聞東京本社編集部/外交国際グループ記者

< 11月 >

講師：三ッ森 隆司氏 (53回)

演題：「変化を恐れずチャレンジに挑もう」

経歴：日本NCR株式会社代表取締役兼CEO

< 12月 >

講師：苅部 千恵氏 (47回)

演題：「ストレス時代を生きる」

経歴：クリニック病院長(心療内科医)

< 2月 >

講師：磯部 周平氏 (43回)

演題：「クラシック音楽の舞台裏&クラリネットの演奏」

経歴：前NHK交響楽団奏者・東京芸術大学講師



渡邊あゆみ氏

新たな挑戦

湘南高校校長 川井 陽一

着任四年目を迎えました。

湘友会の皆様には、土曜講座、キャリア講演会を始め日頃より、湘南高校に格別のご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

90周年の前年となりました。学校としては、記念誌、記念行事等の準備を本格化させてまいります。

記念事業としての校史資料館建設に向けての田辺会長を中心とした湘友会あげてのご支援には、感謝のみでございませう。伝統の集積、継承、発信等、いろいろな意味で、校史資料館の果たす役割は、誠に大きなものがあると確信しております。90周年に向けて、学校、湘友会、PTA等連携を深めながら準備を進めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、湘南高校は、伝統を踏まえながら新たな挑戦を続けており、その成果が着実にあらわれつつあります。

定時制においては、昨年度の新入生から単位制という新たな枠組みでの学習がスタートしました。一年間の実践を踏まえ、従来の学年制の良さを生かしながら、湘南高校定時制にふさわしい単位制のあり方をさらに追求していきたいと思ひます。多様な生徒へのきめ細かな指導を今後も継続しながら、生徒の力を引き出すための工夫を行ってまいります。

全日制について言えば、私は、着任以来、「高い学力高い進学意欲を持つ生徒一人ひとりの希望進路の実現」及び、「将来社会の優れたリーダーとして活躍できる人間の育成」を二つのミッションとして掲げ、その実現に取り組んでおります。生徒には、文武両道、それも「極めて高いレベルの文武両道の追求」を呼びかけ、そのために、常に「最も困難な道に挑戦せよ」と話しています。

「学力向上進学重点校」指定三年目、「独自入試問題」導入三年目の昨年度において、卒業生は、部活動や学校行事において成果を収めたのみならず、進学においても最後まで初志を貫き、難関大学合格者増等成果を収めてくれました。人間的な成長を図ることを大切にしながらも、難関大学進学に関しては、さらなる前進、躍進へ向けて、職員・生徒一体となって取り組んでおり、皆様の期待と信頼に応えてまいります。

湘南高校の価値を高めることは公教育の価値を高めることであり、公教育が復権することは、人づくりという点で、わが国の将来にも重要な意味を持つと思ひます。公教育の旗手としての湘南高校復活を期し挑戦を続けてまいります。引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。



湘南高校 Now

湘南歳時記



湘南高校の
1 年は桜の開
花する4月の
始業式から始
まり、入学式、
離着任式と式
典が続きます。
1 年生と2 年
生は新しいク

ラス、3 年生は2 年生のクラスで卒業までの1 年間を
過ごしていきます。

4 月 入学式、陸上記録会

新年度の
学校行事は
4 月下旬の
陸上記録会
から始まり
ます。2009
年は4 月
24 日(金)
湘南ベルマ
ーレのホー



ムグラウンドである平塚陸上競技場で行われました。
1 年生にとっては初めての対組競技であり、これ以降、
数々の本校の学校行事を体験していきます。

6 月 文化祭

20 日(土)・21 日(日)には文化祭が、定時制と全
日制と合同で開催されました。文化祭は、文化部が日
頃の活動の成果を発表する場になっていますが、その
ほかにも青空パートでは、演技やパフォーマンスを演
じ、食堂パートではカレーライス、湘南饅頭、チーズ
ケーキなどが販売され、高校時代の味を懐かしがって
いるOB やOG の姿も見られました。

今年度の文化祭は、6 月19 日(土)・20 日(日)に
開催されます。

7 月 合唱コンクール

16 日(木)
平塚市民セン
ターで合唱コ
ンクールが行
われました。
各クラスが課
題曲と自由曲
を発表し、混
声4 部合唱の
美しいハーモニーを響かせていました。



8 月 夏休み

8 月の夏休み期間には、各色が9 月の体育祭に向け

てバックボードや大道具、衣装、仮装などの準備や練習に精を出す姿が見られました。一方、夏期講習では
60 を超す講座が設けられ、生徒たちは暑さにも負けず、
勉学に励んでいました。

9 月 体育祭

19 日(月)には体育祭が実施されました。毎年5000
人を超す
方々がお見
えになり、
生徒達は準備
や練習に長い時間
をかけて、この
日を迎えました。



今年度の体育祭は、9 月18 日(土)実施の予定です。

1 0 月 修学旅行

3 泊4 日の日程で福岡と長崎を宿泊地とし、班別自
主行動を主体とする修学旅行が実施されました。生徒
は博多、大宰府、柳川、大牟田、長崎、佐世保を中心
に見聞を広めました。新型インフルエンザが流行する
なか、遅れて参加したり、途中で帰宅する生徒もいま
したが、全員が修学旅行に参加することができました。

1 1 月 対組駅伝大会

13 日(金)に、今年度の対組競技を締めくくる駅伝
大会が、辻堂海浜公園で行われました。小雨混じりの
寒風が吹くなか、選手はクラスの声援を受け、一生懸命
に走っていました。今年は天候の関係で、海浜公園
の清掃、午後の表彰式は中止となりました。

1 月 スキー教室

冬休み中に菅平高原スキー場で、1 年生の希望者
125 名が参加し、スキー教室が実施されました。初日
は滑ることの出来なかった生徒も、最終日には何とか
自由な滑降ができるようになりました。

3 月 卒業式

5 日(金) 第62 回卒業式が厳粛な雰囲気の中に行
われ、315 名が湘南を巣立っていきました。

トピックス

個人の活躍としては、フェンシング部3 年生の中島
君が国体の神奈川県少年男子チームの一員として参加
し、団体のベスト12 位という成績に貢献しました。また、
3 年生の引地君が、全国生物学コンテスト生物チ
ャレンジ2009 国際生物学オリンピックで「全国の上
位5 % 以内」優秀賞を受賞しました。さらに
1 年生の大島君が、「第20 回 数学オリンピック」の
予選でA ランクに入賞するという優秀な成績を収めました。

最近の学校の様子はホームページでもご覧になるこ
とができます。是非、ご覧ください。

<http://www.shonan-h.pen-kanagawa.ed.jp/>

(全日制前教頭 田中)

生徒数

(2010年4月1日現在)

	1年	2年	3年	計
男子	200	178	188	566
女子	159	139	134	432
計	359	317	322	998

平成21年度決算・平成22年度予算 省略

進路状況

主な大学の合格者数

大学名		大学名	
北海道大	2	首都大東京	9
東北大	3	横浜市立大	8
筑波大	3	県立保健福祉大	1
千葉大	2	防衛医科大	1
お茶の水女子大	3	早稲田大	146
東京大	11	慶應義塾大	51
東京外語大	1	上智大	40
東京学芸大	4	立教大	52
東京芸術大	1	明治大	130
東京工業大	8	法政大	40
東京農工大	7	中央大	57
一橋大	5	東京理科大	54
横浜国立大	15	青山学院大	58
京都大	4	津田塾大	7
大阪大	4	学習院大	7
神戸大	1	明治学院大	42

(2010年4月1日判明分)

湘友会新入会員数

2010年3月の湘友会新入会員数は、全日制315名、定時制85名、合計400名でした。

2010年春の湘南高校教職員異動

(省略)

ウェブ版湘友会報についてのご説明

ウェブ版は、会員のみならず会員以外の不特定多数の方々にも参照されるため、次の改変を行っていますのでご了承ください。

会員の氏名は、原則として名前は削除し、姓のみ記載。また、連絡先電話番号、住所は削除。ただし、会長、副会長、校長先生、副校長先生、往時の先生方、著名な方、講演者、寄稿者、故人の姓名は原文のまま。

写真は、個人を明瞭に特定できるものは削除、ただし、会長、副会長、校長先生、副校長先生、往時の先生方、著名な方、講演者、寄稿者、故人はそのまま掲載。

決算・予算報告、教職員の異動、委員会等の組織の構成員のリストは割愛。

湘友会ウェブマスター

先生方の湘南回顧録



体育科の思い出

元湘南高校体育科教諭

鈴木 中 (昭和36年～63年)

湘友会から原稿を依頼され何を書こうか迷ったが、やはり体育科の思い出に落ち着いた。

標記したように28年間の「古き良き時代の体育科」の話は書き出せばきりが無いほど、楽しい思い出ばかりである、現在も年に1回当時を偲ぶ「ゆかりの会」をやっているが数十名のメンバーが集まる楽しい会である。(旧・現・全、定、通、体育科教員+部活顧問他)

自画自賛になるが、当時の体育科は神奈川一、いや日本一、だと思っている、メンバーの豊富さ、授業内容の充実、部活動指導、学校行事、その他チームワーク等々、昭和36年・今は亡き藤原、細谷先生を頭に、鈴木中、大塚、山田勉、後藤、新木、盛本、藤原(蒲谷)、中島、それぞれ専門種目の違う全日制の優秀な体育科教員が集まった。(後に校長5人)

授業内容の特徴は何と言っても、能力別クラス編成が挙げられよう。体育は運動能力の等質集団の授業形態の方が成果が上がるのではないかと、検討に検討し、学校側の了解を得て能力別小集団学級を編成して特色を出した授業を行った。「縄跳び」「持久走・長距離走」「水泳」等々、生徒達は文句を言いながらも結構楽しんでた。

部活動指導は当時(県)高体連会長「香川幹一校長」が思い出される。何が何でも勝たねばならぬ、そしてサッカー好きの名物校長であった。私も若かったので選手の前頭に立って走り、全国大会へ3回、国体に2回、関東大会に8回駒を進めた。昭和42年には関東大会で優勝し、藤沢駅から学校まで優勝旗を持って凱行進をした楽しい思い出がある。

又サッカー部の思い出を書くときりが無いが、最後に正月の選手権大会に出場したのが平成元年、湘南を卒業した年で全国ベスト8になってから、21年が経ってしまった。最近はグランドに足を運び、孫のような生徒達に「そろそろ7回目の正月の大会に出場しよう」と発破を掛けている。[サッカー部の詳細は、OB会のHP(続々・中メール&ギャラリー)をご覧ください]

学校行事・「体育祭」「浦和高校定期戦」「スキー教室」これらの行事の中で今尚続いている「体育祭」は昔ながらの仮装行列がマ스ゲーム ダンス カーニバル 祭りとマンモス化され変化し、大道具、バックボード、踊る衣装、仮装演技、とエスカレートし現在のものに変化してきた。「お化け」と表現するようになり、最近私は不愉快な事が多いのでこの時期は学校に行かないようにしている。(赤毛の兄ちゃんが多くなり、気に入らない・・・)

このように非常にユニークな、内容のある体育科の教員を28年間もの長い間勤めさせてもらった。この間最初の10年は部活指導中心、次の10年が担任としてクラス経営、最後の8年は生徒指導を中心の学校経営、と充実した湘南の教員生活だった。その後10年は管理職として「荏田高校・平安高校・海老名高校」の教頭・校長で定年退職した。

定年後は「神奈川県サッカー協会・理事長・会長」を勤め、4年前に「古希」を迎え全て引退し現在は(感謝・元気・脳の活性化)をテーマに「絵描き」「PCを叩き」「恥」を書きながら充実したサンデー毎日を送っている。そして好きなスポーツ活動も続けて、水泳、ゴルフ、スキーで汗を流している。



湘南高校グランド東側から新校舎を見る

グランドで、この木を眺めていると、楽しかった体育科の思い出が浮かんでくる

いつの日かこのグランドが人工芝になることを夢見ながら筆を進めている

人・生き生き



千葉商科大学大学院教授・政策情報学部長
神奈川県教育委員

宮崎 緑 さん（51 回）

< 横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校の思い出 >

鎌倉で育った私は、湘南白百合学園小学校から横浜国立大学附属鎌倉中学校に進学しました。附属中は学校全体が家族のような雰囲気、毎日楽しく過ごせた本当によい学校でした。友達と鎌倉駅で待ち合わせをして登校したのですが、全員そろそろまで遅刻になるのが待っていたんです。そして全員が集まると、通学路である八幡宮の段葛を遅刻しないように疾走しました。ところが段葛は八幡様に向かって次第に道幅が狭くなる構造なのです。狭い鎌倉を広く見せる遠近法の手法で、先人の知恵には感嘆させられますが、走っても走っても着かない感じで、頼朝を恨んだものです（笑）。流鏝馬の馬場の辺りなど馬より速く走っているのではないかと思います。学校に着いてぜいぜい言いながら、チャイムの音の余韻を感じていました。

附属中の連帯感を示すエピソードですが、ある男子が廊下で箒をふりまわして人にあたってしまったという事件が起き、そのクラスの生徒全員が連帯責任で夕方まで先生に叱られて残されたのです。他のクラスの生徒は「帰れ」と言われたのですが、かわいそうで帰れず、みんな体育館などに隠れてずっと待っていてさらに怒られたのでした。そういう連帯意識によって体育祭など学校行事を支え、湘南高校に進学してからも、今度は先輩として附属中の行事に駆けつけました。先生方の生徒への接し方も授業一辺倒ではなく、流鏝馬の行事があれば、授業をつぶして見に連れていってくれたりしました。もし、人生のどの時代に戻りたいかと問われたら、間違いなく附属中と答えるでしょう。

< 湘南高校の思い出 >

当時の湘南高校は、東京大学合格者が何名で全国第何位とか、高名な先輩達を世に輩出している進学校でありました。私は、受験、受験という殺伐とした雰囲気が嫌で、最初テニス部に入部しました。その頃男女一緒に運動部は珍しく、朝練は勿論のこと、昼休みはコート整備で男女関係なくローラーを引かされました。私は真面目で早弁ができませんでしたので、くたくたに疲

れ、食欲はなくなり、結局ドクターストップがかかってしまい、途中から文化部に転部しました。美術部の後、1年時のクラスが大変楽しかったので、和気あいあいと青春を紡げるような部活がいいなと思い、仲のよい級友達と部室を一つ占拠しようと画策して地理研へ転部しました。地域特性の観察、調査や企画をたてるという口実のもと、ハイキングやオリエンテーリングに出かけ、相模川を下流からずっと一日がかりで歩いて子供の国まで行ったりしたものです。

湘南高校は本当に行事が多い学校で、私は文化祭実行委員、体育祭実行委員、クラス別の色別対抗競技といろいろな役を引き受けていました。色別対抗競技では私自身、テニスだけでなくバトミントン、卓球、水泳などの競技にも参加していました。毎月毎月、同じ顔ぶれではいけないと提案して、生徒会で競技は一人三回までと規定を作ったりしました。

今でも世代を超えた同窓生の話の中で、湘南では何色でしたかとよく聞かれるくらい、学年縦割りの色別の体育祭の思い出は強かったです。夏休みに入ると仮装の準備やバックボードの製作に入りました。私の色はバックボードでは、瓶の金属の蓋を平たくなるまでトンカチでつぶして、それをベニアに打ち付けて、風になびく点描画を作ったのです。手に豆ができるくらい一生懸命苦労して製作したのに、優勝出来ませんでした。

仮装では宇宙人が円盤から出てくるというストーリーを作ったのですが、大道具が難しく、円盤ではなくお釜から宇宙人が出てきたようになってしまい傑作でした。結果はともあれ、どのパートも全身全霊で力を込めてやっていましたので、賞が取れなかった時、男女みんな悔しく泣きました。また、体育祭終了後の脱力感も大きくしばらく立ち直れませんでした。

湘南高校での学校生活で得た友人達とは今でも交流がありますし、当時は感じていませんでしたが、先輩、後輩を含め湘南を卒業した同窓生が持つ人のネットワークがしっかりしていたことに大変感謝しております。

< メディアでジャーナリストとして過ごした時代 >

高校は理系で、大学では物理を専攻したかったのですが、進学にあたって父から「これからは国際政治の時代だから国際政治学をやいなさい。そうでなければ学費を出さない」と強くアドバイスを受け、親の言に従う古典的価値観の中で育ってきた環境もあり、慶應義塾大学法学部政治学科に進みました。ところが、学究の徒を目指した矢先の学部3学年修了時にその父が重い病気で臥せてしまいました。母は専業主婦、弟はまだ高校生でしたから、私が父に代わって一家を引っ張っていかなければならないという使命感に襲われました。家庭教師しか「社会経験」がなく、世間知らずだったので、大変危機感を持ちました。就職も考えたのですが、大学院へ進学したいという気持ちも強くあり、悩みました。幸い父の手術が成功して大学院に進学することになりましたが、この間、いろいろ私のこ

とを心配してくださったのが慶應の先輩達のネットワークでした。研究者が就職といってもつづしがきかないだろう、また、社会のいろいろなことが一遍にわかるだろうという配慮もあって、NHKの取材者のポストを用意してくださったのです。大学院に合格していたので、NHKは契約、本務は学生という二足の草鞋を履くことになりました。

最初は番組制作局の教養科学部で科学番組を担当し、好きだった理科関係の取材を始めました。2年後、報道局に移り、「ニュースセンター9時」の初的女性キャスターを拝命しました。当時はそれがどんなに大変なことかわからず、指示通りに受けてしまったのですが、今思うと大それたことで冷や汗がでます。

午前11時から数度の編集会議、取材、インタビュー、データ整理、原稿書きとずっと仕事が続き、自分の時間はまったくありませんでした。文字通り24時間ニュースの現場にいるという生活です。視聴者の皆様に対する責任を放棄するわけにはいかないので、実際にはNHKと大学院が逆転してしまいました。

1982(昭和57)年4月、キャスター生活が始まった途端、世界ではイギリスとアルゼンチンとの間でフォークランド紛争が勃発しました。南極に近いフォークランド諸島の領有権を巡る紛争で、私はこれでも国際政治学専攻の大学院生ですから、国際法辞典を小脇にかかえて最初の編集会議で南極条約とは云々、資源の領有権はどうだとか、頬を上気させて臨みました。しかし、会議ではイギリス空母インヴィンシブルが出航するとか、アメリカのABC放送から空撮の映像がもらえとか、向こうは特派員がいなくて、どこで中継をつなげるかとか、現場の即物的な情報が飛び交って、私の発言は顧みられませんでした。

私がジャーナリストとして壁にぶつかった時、政治部記者で「ニュースセンター9時」の先輩キャスターだった小浜惟人氏がいろいろとアドバイスしてくださいました。「壁は3の倍数で来るよ。3日目、3週間目、3か月目。」と最初に教えてもらったんですけど、私の場合は空母インヴィンシブルの件でたった1日で来てしまいました。小浜氏が政治部の若手を誘って新宿の高層ビルで飲んだ時、「街の灯を見てごらん。それぞれの灯の下にはそれぞれの人生があるんだ。上を見たらきりが無い、下を見てもまたきりが無い。自分らしくやればいいんだ。」とまたアドバイスされました。NHKでも人のネットワークというか、周囲の温かい人間関係の中で支えられてきました。

<再び学究の徒を目指して>

「ニュースセンター9時」を中心にメディア世界にいる中で、「私は学問の世界の人間なのにジャーナリストになってしまった。これでいいのか、適性はあるのか」等考えるようになりました。また、メディアはバーチャルな世界であって、作られていく「現実」みたいなものを目の当たりにしてきましたし、私自身の像についても私でない私が独り歩きすることが多々あり

みやざき みどり

慶應義塾大学法学部政治学科卒、同大学院法学研究科修了。NHK「ニュースセンター9時」初の女性キャスター。東京工業大学講師、千葉商科大学政策情報学部助教授、教授を経て現在、千葉商科大学大学院教授、学部長。鹿児島県奄美パーク園長、田中一村記念美術館館長、神奈川県教育委員、日本計画行政学会常務理事、ソニー教育財団理事、東京大学政策ビジョン研究センター アドバイザー等。

ました。等身大の自分に戻りたい、学究の徒に戻りたいという気持ちが強く、少しメディアとも関わりながら東京工業大学社会工学科で非常勤講師を勤めました。その後、慶應義塾大学でお世話になった加藤寛教授が新しく立ち上げた千葉商科大学政策情報学部助教授で入りました。大学自体は100年近い歴史を持つ伝統校ですが、政策情報学部は、20世紀の学問体系を再編する新たなアカデミズムの潮流のもと、超領域の全く新しいコンセプトで創設されました。学問領域を単なる学際ではない新たな切り口でつくことを目指しています。実は、先の教授会で学部長に選ばれてしまい、この4月から研究と教育に加えて学部長としての仕事が始まりました。

私は自分自身の生き方を組み紐型の人生とよく言いますが、人には能力、切り口、趣味、信条いろいろな側面があり、それらを自在に紡いでいくといろいろな彩りの生き方ができるのではないかと考えています。大学の顔、メディアの顔、その他別の顔があってよいと思うようになりました。

<奄美の美術館館長として>

2001(平成13)年から鹿児島県奄美大島で地域の情報発信拠点である文化施設の館長を勤めています。屋久島を世界遺産に登録する策定委員として現地調査したことがきっかけで南の島々に魅せられています。屋久杉をはじめ沖縄に至る南西諸島全体の生態系等の自然環境、歴史・民俗学まで調査すると、東京からは見えない日本が見えてきます。普天間問題、アジアの安全保障、琉球と大和の狭間で双方の文化的影響を受けながらも、独自の文化を発展させてきました。20世紀は標準化の時代で、同じような都市化を進めることが近代化だという意識がありましたが、これからは地域の多様性とか地域特性が育むものに注目すべきだと思います。奄美の場合、島により集落により言葉もライフスタイルも実に異なる多様性に満ちている一方で、奄美という全体のアイデンティティを持っています。こういう発想はパレスチナ問題等、世界の地域紛争の解決モデルにもつながっていくのではありませんか。

一大変ありがとうございました。私たち同窓生は、今後も宮崎さんのご活躍を祈念しております。

<平成21年11月14日 グランドホテル湘南にて>

聞き手：江藤(36)、柏木(51) (文責：柏木)



定時制部会より

定時制部会長 杉浦 信次

21年度主要行事

4月 入学式 宮田副会長 出席

5月 「会報 29号」発行

9月 「進路セミナー」

(3・4年生対象の湘友会定時制部会の出前講座)

・杉浦会長の講話

「社会人としての自覚ある自己形成の必要性和就職についての意識の高揚と認識の涵養について」

・五百川副会長により「小論文の書き方」講座

・谷口幹事を中心に、卒業生5名による「卒業生との座談会」は近年卒業した先輩を囲んだ座談会のため、身近なものとして好評でした。

・このセミナーは年を重ねるごとに生徒に定着し、先輩と在校生の絆を深める授業となっています。



「進路セミナー」での
宮田副会長

12月 「法律セミナー」

講師 弁護士 小山二郎氏(17回生)

「高校生のためのわかりやすい法律知識」と題した講演は、氏が苦学して弁護士の資格を取得しただけあって、豊富な経験や実例を駆使し説得力のある内容で、生徒たちの心にも大いに響いたと確信しています。

3月 天喰事務局長 湘友会への入会説明を実施
卒業式には杉浦会長が出席し、祝辞を述べました。

補助事業

7月 全国大会出場者に補助支援

10月 体育祭に補助支援

創立90周年記念事業対応

3月末までに、1,401,000円、106名の募金賛同者があり感謝しています。湘友会会長の言われるように少しでも大勢の方のご支援があれば資料館の価値も倍増すると思います。今後ともご協力をお願いします。

湘南高校定時制は、2009年度入学生より単位制による「定時制普通科高校」になりました。授業は午後3時25分より始まり、1日1～6時限までの6コマの授業を開講しています。通常の修業年限は4年間ですが、3年間で卒業することも可能です。
今春の卒業生は、3年卒31名、4年卒62名でした。

通信制同窓会(むつみ会)より

むつみ会会長 若命徳達

むつみ会について

新会員が誕生しない今、2年前までの卒業式を思い出すと寂しさが増してきます。

当時は個人組の卒業生に加えて、少年工科学校の生徒が大型バス5台に分乗して登校してきました。卒業式は長い間、卒業生約500名、先生方約50名、個人組の保護者100～120名と、総勢700名近い盛大な卒業式が続いておりました。湘友会への入会者は、少工卒業生は全員加入しましたが、個人組の加入者は一桁台がこの10年ほど続いていました。このような状況の中でしたが、毎年個人組卒業生向けの入会説明会では、湘友会の活動や「むつみ会」の活動などのプリントを用意して、一生懸命説明してきました。今脳裏に浮かぶのは反省ばかりで、多くの卒業生に湘友会の良さ、「むつみ会」の楽しさを体験する場を与えることができず、申し訳なく思っています。入会説明会で、「数年先でも学校のことを思い出したら入会してほしい」と語りかけ、そのような入会者が増えることを、私は大いに期待しております。

「むつみ会」は当面は会報の発行と、楽しく役に立つ料理教室の実施を中心に活動が続けて行く予定です。

「むつみ会」幹事にはやる気があり、素晴らしい才能の持ち主が大勢いますので、連絡を密にして活動を進めていきます。



通信制記念碑除幕式 恩師指宿先生を囲んで(平成21年1月)

「週刊朝日」(4月30日号)

「日本の名門高校 新ベスト100」(公立高校編)
湘南高校が掲載されました!

川井湘南高校長、田辺湘友会長のメッセージに加え
母校90年の歴史について

建学の精神から湘南高校の最新情報までが
掲載されております

—「週刊朝日」提供の別刷りを同封してあります—

支 部 だより

藤沢支部

今年も「夏のつどい」でお会いしましょう

あちこちの花火大会が終わる頃、夏の終わりを飾って毎年藤沢支部主催のイベント「夏のつどい」が行われます。今年は何と言っても大久保氏(45回)の講演と格調高いテノールリサイタルです。8月28日(土)18時からです。ご期待下さい。藤沢在住の方はもとより、どなたでもお誘いあわせのうえ藤沢市民会館にお出かけ下さい。先輩、後輩、同期、同級の楽しい交流・親睦を今年も会費7千円で。

2009年、昨年から「夏のつどい」は従来のグランドホテル藤沢から藤沢市民会館に場所を変えました。参加140人、小野氏(42回)の講演「刑事裁判うら・おもて」と小林氏(37回生)のウエスタン演奏で大いに盛り上がりました。(鈴木 41回)

鎌倉支部

鎌倉支部はしばらくぶりに総会を開くことになりました。今回は宮崎 緑 さん(51回・NHK初の女性ニュースキャスター、千葉商科大学大学院教授・政策情報学部長として活躍)に『時代の語るもの』という講演をお願いし、その後懇親会を開きます。鎌倉・逗子・葉山に在住・在勤(以前在住の方も含む)の同窓生は、友人やご家族お誘い合わせの上ご出席ください。

日時：9月18日(土)16:00~19:00(受付15:30~)
会場：鎌倉芸術館(大船駅から10分) ☎0467-48-5500
会費：7千円 参加申込：下記宛に葉書かFaxで氏名・住所・電話・卒業年を知らせてください。(9/3まで)

志賀野(47回) (電話・住所は略)

なお当日になっての出席取り消しはご容赦ください。(内海 31回)

平塚支部

平成21年度支部総会・懇親会を、2009年11月28日(土)17時から、グランドホテル神奈中平塚で、川井校長先生、田辺会長にご出席をいただき、支部会員27名の参加を得て開催しました。

総会では、学校、湘友会の近況を伺い、懇親会に移り、楽しく歓談した後、校歌・応援歌を斉唱しお開きとなりました。(田中 36回)

横浜湘友会

平成21年6月3日(月)午後6時30分より、相鉄グループの横浜駅西口「横浜ベイシェラトンホテル&



タワーズ」にて第19回「横浜湘友会」を開催。恒例になりました石原君(旧姓小栗・60回)の名司会のもと、渋谷支部長(33回)の挨拶に始まり、田辺会長(36回)から湘友会の現況報告があり、来賓の川井校長のご挨拶をいただいた後、参加者中最年長の新堀君(25回)の乾杯、初参加の会員紹介があり、眺めの素晴らしいホテルの最上階で常連や新顔入り交じって思い出話や商談に華を咲かせ、賑やかに初夏の一夜を過ごしました。最後に校歌斉唱・エールで散会。

(片岡 37回)

学 年 だより

20回5卒の会

卒業64年目の同窓会が、恒例の11月23日藤沢産業センターで開催されました。年々健康等の理由で出席者は30名と減少の傾向でした。

記念写真撮影後 初見君の司会で今年の代表原田君の開会の辞があり、物故者への黙祷後クラスメイトスピーチに入りました。高橋君の『県下陸上競技大会優勝の思い出』を予定していましたが体調を崩し欠席のため高橋君と共に県大会に選手として出場した高井君が大会の思い出を代弁してくれました。

久しぶりに出席された荒牧君の乾杯の音頭で会食に入りその間に多くの方のスピーチがあり時の経つのを忘れるくらいでした。

さらに今年より『みんなで歌おう』と小原君の指揮で『故郷』『朧月夜』を合唱し久しぶりに若き時代を思い出しました。盛りあがったところで『校歌』を斉唱、次期代表宮原君の再会を祈念した挨拶があり盛会のうちに終了しました。(青木)



20回4卒の会

卒業64年記念総会と銘打った平成21年度総会は、2009年10月5日(月)昨年同様藤沢産業センター8階情報ラウンジで開催された。会場には田村君が作成した大漁旗と見紛うような立派な「湘中20回4卒クラス会の旗」(一部未完成ながら、校歌、在学中の担任の先生の名前が書かれている緑色旗、来年総会までには



完成予定)が飾られ、錦上花を添えた。我々入学当初は約

300人であった同級生も、卒業以来64年経ち物故者も今年の6名を含め計151名（ほかに消息不明者23名）となったが、今年は昨年の48名より5名も多い53名の元氣な会員が出席した。

開会に先立ち下里君による恒例の記念写真撮影は、今年は来賓の田辺会長（36回）も同席して撮影後、石川君の司会により第1部開会。植木会長から、まず、昨年我々が目度く傘寿を迎えてから早1年経ったが、本日昨年にも増して53名という多数の会員の出席をいただいたことに対して謝辞が述べられ、「64年前の記憶をたどってみると楽しかったこと苦しかったことは、すべて懐かしい思い出と化し、校風や伝統、雰囲気といった形でよみがえって来ますが、今教育の現場では、大学も高校も少子化の時代を迎えており、ただ伝統の上に乗っていることなどは、到底許されない難しい時代になっている様で、本日ご出席いただいた田辺会長から母校の近況などについて、お話をいただけること大変有難いことであると感謝申し上げます。また、横浜地区幹事でもある医師金子君にお願いして、80代の我々の健康問題について、核心に触れる点を集めて、要領よくお話していただくように頼んであります。どうぞ今日一日を楽しく有意義な一日にさせていただきたいと思います。」との挨拶があった。次いで、田辺会長よりご祝辞とともに、脈々とつながる文武両道の伝統を持つ湘南高校の現状をお話していただいた後、大正10年創立、平成23年に創立90周年を迎える母校の記念事業の一環として、いくつかの機能を併せ持った校史資料館を校内に建設し母校へ寄贈する計画を、湘友会が目下進めておりますので、これへのご厚志何卒お寄せ下さいとの協力要請があった。次いで黙禱、細君の指揮により校歌斉唱、秋元君による会計報告、君塚君による監査報告等があり、滞りなく第1部を終了した。

引き続き妹川副会長の司会により第2部に入った。開会に先立って、金子君（医師）より「加齢と共に気になる症状と対策（予防）」と題した講話があった。高齢者が日頃行うべき健康管理や、健康の秘訣（予防）など、コンパクトにまとめたレジメも用意され、懇切丁寧、かつ名調子での話し振りに、我々世代が最も関心をもつ事項だけに一同真剣に耳を傾け、大変好評であった。

次いで、同君の乾杯の音頭で和やかな宴会がスタートした。今年の総会は初めて湘友会会長の来賓祝辞があったり、好評を博した金子君の健康講話など内容も充実した会であったので、ムードもいやが上にも盛り上がり、話題も豊富な懇談会となった。楽しい歓談、旧交を温める時間は瞬く間に経過、終宴の時を迎え東京地区幹事の中原君の閉会の辞、西川君の力強い一本締めで名残尽きぬ会もお開きとなり、一同来年の再会を期し家路についた。（妹川）

27回生 不作会

平成21年度不作会総会は、6月19日（金）に横浜

のホテルニューグランド「レインボールーム」において開催されました。会員数285名中93名が出席、来賓は斎藤忠先生、川井校長、および田辺会長の方々でした。

今年の幹事は31組、総会に引き続いて次の両君の記念講演がありました。北里大学名誉教授 比企君の演題は「がんたたかう外科医」、内視鏡治療開発の第一人者として彼の名は知られているが、1956年メルボルンオリンピックのボートの代表選手として活躍したことも忘れられない。鎌倉内科診療所 正山君の講演は「メタボリックシンドローム—その意味と診断基準」という演題で、私たちにはとりわけ関心が強い話でした。彼は現役で診療に当たっているほか、神奈川県内科医学会常任理事等数々の役職を精力的に務めている。

懇親会ではホテルの料理を味わい、仲間達の会話で時が過ぎ、正山君の知人である馬場さんが生き生きとした魅力的なピアノ演奏で興趣をわかせてくれた。そしてそれをバックに恒例のパンちゃんこと杉山君のリードで校歌・応援歌と歌い進んだのです。

港横浜は昨年開港150周年を迎えました。敗戦の昭和20年8月、厚木に降り立ったマッカーサーはまっすぐにここホテルニューグランドに入り、2日後本牧に停泊中の戦艦ミズーリ艦上における降伏文書の調印式で「日本は第二の開国を迎えた」とブツンです。私たちは翌21年湘南中学に入学しました。復興と混迷の渦巻く時代でしたが、その中であって我が母校校歌が「開けよこの窓すべて光らむ」と歴史の方向性を鮮やかに示したのであります。 “Be Open the Window”

我らが母校湘南永遠に幸あれ。（井村）

30回生

恒例の同期会（第18回）は、平成21年10月23日（金）午後3時よりグランドホテル湘南に於いて開催。小山、齋藤両先生をお迎えし、我々仲間86名が参集、今は亡き恩師・同期生に黙禱を捧げたあと、例年同様和気藹々、同期の絆を一層深めた一時を過ごしました。

本年度の同期会（第19回）は、11月5日（金）悠稀会展（第5回）は11月2日（火）～7日（日）と同時期に開催

することになりました。詳細は、追ってご案内致します。（会場は、両方とも昨年と同じです。）

湘友会ホームページには、5年前に開催した「卒業50周年記念作品展」及び昨年の第4回「悠稀会展」の作品を掲出しておりますのでご覧下さい。（遠藤）



3 1 回生

昨年は9月19日に、鎌倉芸術館で16回目の同期会を開き、恩師の斎藤忠先生にご出席いただき、野球部で甲子園や母校の監督で活躍し、鎌倉市長も務めた中西君に「思い出すままに」という講演をお願いし、めったに聞けない鎌倉市長時代のご苦労話やエピソードなどを聞きました。また湘友会長として湘友会再建に尽力した天野武和君のご苦労もねぎらいました。特に天野君から依頼があった90周年募金については、31回生としては全員に呼び掛けて全面的に協力しようということになりました。

来年は調停委員や教育委員としても活躍されてきた松井(旧姓村田)さんの話を聞く予定です。ぜひご出席ください。(内海)
連絡先: 内海 電話・Fax 略

3 4 回生 湘南高校卒業50周年記念同窓会

昨年(2009年)湘南高校を卒業して50周年となる記念の年を迎えた私たち34回生は、4月25日(土)に鎌倉プリンスホテルで盛大な同窓会を開催しました。同窓会の参加者は、127名で、それに斎藤忠先生がただお一人出席してくださいました。当日はあいにくの風雨の強い荒天でしたが、ビュッフェ形式の食事を囲んだ皆さんの昔話を中心とした笑顔と笑い声は、荒天も吹き飛ばしてしまったようです。ホテルには、8クラスすべてに対して喫茶コーナーを準備していただき、同窓会終了と同時に、喫茶コーナーに移動してクラスごとに座ってじっくりと語り合える雰囲気も用意しました。参加した皆様は、また近いうちの再会を誓い合って、楽しい思い出を抱いて帰宅されました。<P.13 写真掲載> (34組幹事 江崎)

4 2 回生 第4回同期会開催

下記のスケジュールで第4回同期会を開催します。
*日時: 平成22年11月6日(土) 16:00~18:00
*場所: グランドホテル湘南
詳細は、湘友会ホームページに掲載。(今村幸)

いろいろ湘友会

秀麗会(英語研究部OB会)

2009年11月15日(日)、JR桜木町駅近くのレストラン「ガス灯」において第30回総会を開催しました。「秀麗会」は、英語研究部OB会として1980年(昭和55年)に発足し、会員数は現在70名です。

当日は、総勢22名(+お子さん1名)が集まりました。幹事の進行のもと、恒例の阿部会長(46回生)の開会の挨拶と乾杯で始まり、歓談では皆さん懐かしい話また近況で盛り上がりしました。今年は30回目の記念開催であり、スクリーンでは過去の旅行の記録を紹介

しました。20年以上も前の仲間を見てはお互いに顔を見合わせて笑いが絶えませんでした。また、9月に30年を記念して箱根湯本の富士屋ホテルに一泊旅行した際の写真も紹介しました。その後、恒例となる全員の近況報告を行い、総会初出席で高校卒業以来初めてという人もいて、お互いに懐かしくも新鮮な再会となりました。あっという間の約3時間の会はお開きとなりました。次年度は11月の第2、3日曜日の何れかに開催する予定です。<P.13 写真掲載>

(外崎 54回)

合唱部OP会

約150名の方々にご参加いただいた創設50周年祝賀会を、1996年に開催して以来14年。当時運営を支えた学生スタッフが社会人となり、活動できない状態が続いてしまいましたが、昨年10月10日に行われた校歌祭に、有志を募って参加しました。マンパワー不足で、一部の方々にしかご連絡できませんでしたが、20名近い参加があり、他の卒業生や現役生に交じって、厚木の空に校歌を響かせてきました。

合唱部にとって、歌える場所はオアシス。このような場を創っていただいた諸先輩方に感謝しつつ、今後もう少しずつ参加者を増やし、OBOGが集える機会として、校歌祭の場をお借りしたいと考えています。今後の予定は、shonan-chorus-opkai@freeml.comまでお問合せ下さい。<P.13 写真掲載>(会長 金城 63回)

バレーボール部OB会

バレーボール部は1930年に創部され今年で80周年を迎えます。女子部は1965年頃に創部されています。排球部からバレーボール部へ、九人制から六人制へと変遷する中で、実に800名以上の卒業生をバレーボール部から送り出しています。毎年夏には湘南高校体育館で「バレーボール祭」を開催し、九人制時代の大先輩から大学生まで幅広い年代の卒業生が集い、バレーボールを楽しんでいます。また卒業生からの寄稿、現役生徒の言葉・戦績などをまとめた「会報」を発行しています。これらの企画は卒業3年目の代である「年度幹事」を中心に進めています。「年度幹事」は代々20年以上も引き継がれ、バレーボール部の新たな伝統になっています。<P.13 写真掲載>

(幹事代表 堀井 55回)

湘庭会(軟式庭球部<現ソフトテニス部>OBOG会)

卒業期が昭和24年から平成22年まで60期を超えた(62期)ことをお祝いする「60年記念総会」を、3月13日(土)、銀座アスター藤沢賓館で開催しました。62のうち、36の学年(最年長:昭和25年卒、最若年:平成22年卒)から計131名が参集しました。また、元顧問の藤原・川田両先生、現顧問の泉谷・藤井両先生にもご出席いただきました。冒頭、永きにわたり会を見守っていただきました故望月先生はじめ物故者へ黙祷を捧げ、60年を偲びました。懇親会は、昭和25



34 回生 50 周年記念同窓会



秀麗会（英語研究部OB会）



合唱部OP会



バレーボール部OB会

年卒高山先輩のご挨拶・ご発声により始まり、最後は全員で校歌斉唱、“フレフレ湘南・湘庭会”のエールの交換を行い、盛況のうちに散会しました。会の還暦を機に、

改めて、現役とのつながりがあっての会、

若いOB・OGがいてこそこの会を、お互い確認しあいました。（会長 西山 46 回）



ブラジル湘友会

当会は、定住者会員をベースに短期滞在者を交え構成されています。定期的な会合は決めておりませんが、2009 年度は3 回集まりました。3 月 29 日古口氏宅新築祝（写真）9 月 13 日、名誉会員の田村様（初代校長、赤木愛太郎先生のご息女）の米寿の祝いに幹事も参加しました。田村様は、湘南中学創立年にご誕生され、母校湘南とともに成長されたわけです。（去年は湘南高校も米寿でしたね。）9 月 21 日（月）校友、矢澤氏（28 回）のブラジル訪問歓迎会を開催するも、休日でないので、サンパウロ市在住の幹事のみ参加となりました。

ブラジルは2014 年のW杯、2016 年のオリンピック開催国となり、これからは日本との政治・経済・文化の交流が盛んになると思われます。皆さん、ブラジル訪問の折には当会にご連絡下さい。両国の情報交換と、異郷の地に住むわれわれブラジル湘友会会員に若き日に学んだ湘南中学・

高校を思い出させていただくことは、新たなエネルギーを与えてくれることと思います。皆様是非、湘友会本部にご照会



いただき、当会幹事にご連絡下さい。

（幹事 中山 24 回）

27 回生は頑張りマン

27 回生といえば、昭和 21 年 4 月、旧制湘南中学に入学した最後の中学生で、新制湘南高校生として、6 年間に共に過ごした仲間達の絆を大事にしている卒業生である。現在は全員、後期高齢者の仲間入りを果たしたが、その 27 回生が作るゴルフ会が、昨年 9 月 29 日（火）藤沢芙蓉 C.C. で第 87 回目のコンペを行い、目下メンバー30 余名はコンペ 100 回達成を目指している。年 3 回の開催なので目標達成は平成 25 年 12 月の

予定で、達成時には全員 80 歳を越えている。このコンペは、25 年前横浜在住・在勤の同級生の飲み会で出た「たまにはゴルフをやろう」という意見が発端で、昭和 59 年 3 月に 12 名の同級生が参加して第 1 回を行い、その後、熱心な歴代幹事の努力でメンバーも増え、今日まで 25 年間続いている。

さてメンバーの腕前だが、シングルのやはり運動部出身者が占める。青木君（バレー部）佐々木君・原田君（野球部）今井君（水泳部）川井君（体操部）柳川君（サッカー部）達だ。

さあ、目標達成まであと 13 回。メンバー全員、大いに張り切っている。（27 回生ゴルフ会幹事 高橋）



34 回生 半世紀の時を超えて <タスマニアの旅>

ブリスベン、シドニー、メルボルン、ホバートを基地にレンタカーを駆って景勝地を巡り、地元の豊かな食材で自炊を愉しむ手作りの旅は、ハプニングの連続だ。70 年ぶりという「赤い砂嵐」に遭遇、フェリーでは大シケにあり、タスマニアの山道では風倒木に行く手を塞がれ U ターン、数時間ロスして到着した山上ロッジは停電、暗闇の晚餐だ。果ては「X 君ミッシング事件」等々。それでも数多くの国立公園を訪ね、野生のコアラ、ワラビーに会い、カモノハシ、ジュゴンも生で観ることが出来た。ハンターバレー、ヤラバレー



ーではワインに酔い、豪州最東端パイロン岬、最南端タスマニアのサウスイースト岬にも立った。時は春真っ盛り、特異な花が咲き乱れ、萌え出た草と暖かい陽

射しに祝福された 16 日間だった。古稀を目前にした同級生 8 人と妻 2 人による 50 年ぶりの「合宿旅行」は、時を超え少年のあの頃そのままに、自由でのびやかな友情を確かめ合った旅でもあった。（安西）

参加者：安西 河野夫妻 當間 中村

深尾 福永 森 吉崎夫妻

湘友会より ~ お知らせとお願い ~

思い出の資料をご寄贈下さい

資料館建設の計画に先がけて、湘友会では平成 19 年より資料の蒐集を開始し、現在 23 名の方より資料 1 千数百点、写真約 5 百点、冊子・単行本約 1 百点、その他校章・記念品等物品のご寄贈をいただいております。

湘友会では、新設の資料館に、これを展示すると共に、コンピューターでデータ処理をして、湘友会会員には何時でもご覧いただけるように整理を進めております。

ただ、昭和 33 年に火災で本館が焼失した影響は大きく、学校や学生生活の歴史を後世に伝えるにはあまりにも資料が乏しいのが現状です。

そこで、今後も湘南高校（中学）生時代の生活を物語る資料の蒐集を継続していきます。

また、卒業生のその後の足跡や活躍状況も蒐集目的の一つとしております。関連する冊子や報告書・記録・小説その他グッズなども幅広く保存し、後輩につなげていきたいと思います。

お心あたりのある方は湘友会事務所までご連絡下さい。ご協力をお願い致します。

❀ 湘友会ホームページをご覧ください ❀

- 湘友会の活動や支部、クラブOB・OG会の開催予定、報告があります。
 - 母校の動向、貴方の懐かしい思い出の写真もあります。
 - 各学年の動向報告
 - 会員の著作物を [ネット図書館] に掲示
 - 90 周年募金状況、募金と税金など詳しく解説
- さらに 湘友会ホームページは
あなたの投稿をお待ちしています！

❀ 湘友会 SNS の会員になろう ❀

湘友会 SNS 会員になったら、

- コミュニティは同期会や OB・OG 会の連絡に大変便利です・・・幹事さんメンバー登録を
 - 多くのコミュニティがあります。
- 貴方の想像が大きく展開していくでしょう。

* 「湘友会報」は、26,000 部発送、HP で web 版を見ることができます。

事務所では、多くの迷惑メールに悩まされています。送信の際はわかりやすい具体的な件名でお願いします。

創立 90 周年記念 湘友会名簿

来年 6 月発行！！

90 周年記念事業の一環として「湘友会名簿」を発行します。前回の発行から 5 年が経過し、約 2000 名の新会員（卒業生）を迎えています。また既会員の方々の住所、勤務先の異動等もあり、情報の更新が必要な時期となりました。正確な会員情報の掲載された名簿は私たち「湘友会」の大切な財産であり、大事な交流手段です。

調査カード（ハガキ）を 8 月末に発送致します。返信、広告掲載のご協力をお願い致します。

なお製作から発送までを過去 3 回の製作に実績があり、かつ個人情報管理に定評のある名簿専門業者（株）サルトに委託致します。

個人情報の取り扱いについては前回同様、法に則り万全を尽くします。また個人情報の名簿への掲載については氏名以外の提供は任意ですので、その旨を送付される調査カードにて指示願います。但し、住所は原簿への登録のため必ず記入をお願い致します。登録された個人情報は、湘友会が定める個人情報取扱基準に基づき、該当する場合以外には開示しません。

今回は在校時の所属**クラブ活動（部活）**も調査する予定です。承諾される方についてはクラブ（部）ごとの氏名リストに掲載致します。

紛らわしい業者にご注意！

文書、葉書の返信先が、神奈川県立湘南高等学校、湘友会、または、（株）サルト以外のものは、今回の「湘友会名簿」の作成と一切関係ありませんので、ご注意ください。

* 住所変更連絡・物故者連絡

住所変更は、湘友会 HP、E-mail、葉書、または FAX で、湘友会事務所宛ご連絡下さい。特に物故者については、連絡者を明記して下さい。

* 寄稿に関するお願い

同期会、クラブOB・OG会、各種湘友会からの寄稿をお待ちしています。**原稿（300 字程度・字数が多い場合は、やむを得ず割愛させていただく場合があります）・写真（1 枚）**を、連絡先を明記の上、事務所まで直接お送り下さい。データ CD の直送や、文書ファイル添付で、メール送信していただいても結構です。**2 月末日締切期限厳守**でお願いします。

なお、記事の掲載にあたっては、基準を設けさせていただいておりますので、ご不明のときは事務所にお問い合わせ下さい。ご協力よろしくお願い致します。

2010 年 湘友会総会のご案内

6 月 19 日(土) 藤沢産業センター 藤沢駅徒歩 3 分 ☎0466 - 21 - 3811

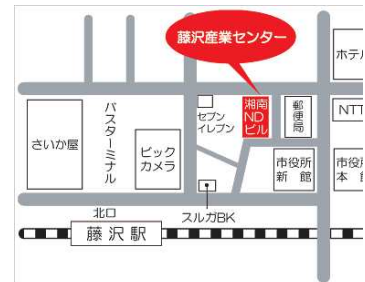
総 会 10:30 ~ (受付開始 10:00)

イベント 12:00 ~

懇 親 会 13:15 ~ 会費: 3,000 円

2010 年度は、卒業回数末尾「0」の方が輪番学年にあたっています。

全日制: 40・50・60・70・80 回生、定時制・通信制: 10・20・30・40・50 回生の皆さん、総会運営の輪番参加をよろしくお願いします。



来年 2011 年の総会運営は、卒業回数末尾「1」の方が中心になります。

全日制: 41・51・61・71・81 回生、定時制・通信制: 11・21・31・41・51 回生の皆さん、出番です！
来年は創立 90 周年です。よろしくお願いします。

総会イベント・講演会

増田 良介 氏 (40 回)

「ロボットの発展と介護ロボットへの期待」

< 増田良介氏 略歴 >

1969 年 東京工業大学制御工学科卒業
同 大学院修了 工学博士
1974 年 東京工業大学理工学部助手
1982 年 東海大学情報理工学部コンピュータ
応用工学科教授 大学院工学研究科情報
通信制御システム工学専攻主任
日本ロボット学会フェロー、元理事
計測自動制御学会評議員、レスキュー部会委員
日本ロボット工業会サービスロボット標準化委員長
ISO 国際標準化委員会日本代表エキスパート
専門は、ロボット工学、福祉工学、制御システム
工学であり、箸をもつ食事介助ロボット、感情表
現ロボット、縄跳びロボット、教育用ロボットな
ど、ユニークなロボットを開発してきた。



少子高齢化社会の中で、今問われるのは生活の質を高めることである。そのようなとき、24 時間、いつでもどこでもだれにでも必要なときに、器用で優しく、気の利く、そんなロボットの期待が高まっている。しかしながら、ロボットの研究はどんどん進んでいるように見えていても、本当に使えるのか？

役に立つのか？ といった疑問もわいてくる。

本講演では、はじめにロボットの最先端技術と応用例を紹介し、次に今まさに開発研究をすすめている、食事介助ロボットや感情表現ロボットについて解説する。これらのロボットは、将来自分の身近において安心して利用できるようなロボットとして、完成させなければいけないと思っている。さらに、ロボットはどうしたら優しくなるのか、我々は、ロボットとの共生社会をどのように作り出していくべきかといったロボット社会の将来を考える。

湘友会は、皆様の会費で運営されています

「10 年会費」の納入をお願いします！

全日制: 40・50・60・70・80 回生、定時制・通信制: 10・20・30・40・50 回生の卒業回数末尾が「0」の皆さん、「10 年会費 5,000 円」の納入をよろしくお願いします。

郵便局払込先

口座番号: 00250 - 4 - 14177 (右詰めに記入)

加入者名: 湘友会

金 額: 5,000 円

* 通信欄に「10 年会費」「卒業回数」を明記

* 払込取扱票が必要な方は、湘友会事務所
までご請求ください。

1952 年以降のご卒業で、今までの輪番年に
「10 年会費」未納の方は払込みをお願いします。

「10 年会費」以外にも、湘友会支部、同期会、
部活動 OB・OG 会等の諸会合や、個人からの
「寄付」をお待ちしています。

校歌祭 で 歌おう

私たちの心のふるさとである湘南高校の校歌を、仲間たちと一緒に歌いませんか。



校歌祭では、県立25校が一堂に参加します。現役の後輩たちと応援団を交え、青春に立ち返り、思う

存分に歌いましょう。秋の一日、気楽にご参加下さい。校歌・応援歌CD[湘吹会作成・8曲収録](1,000円)は、湘友会事務所で直接購入することができます。

第5回 青春 かながわ校歌祭

♪ 日 時 平成22年9月25日(土)
開場 11:30 開演 12:00

♪ 場 所 神奈川県立青少年センター
横浜市西区紅葉ヶ丘9-1
Tel: 045-263-4400

終了後、湘南高校の出演メンバーによる懇親会を予定しています。当日受付にてご案内します。

♪ 曲 目 (1) 校歌
(2) 青春の歌 選手を送る歌(予定)

♪ 練習会のご案内
<第1回> 6月19日(土)
湘友会総会後 懇親会にて
<第2回> 9月23日(木・祝) 14:00~15:00
湘南高校多目的ホールにて

♪ 連絡先 湘友会事務所

脇村春夫氏 (26回) 高校野球神奈川大会で始球式

昨夏の第91回全国高等学校野球選手権大会神奈川大会の開幕試合で始球式を務められたのは、日本高野連前会長の脇村春夫氏(26回)でありました。

同氏は、61年前の1949年に創部3年目の母校野球部が全国優勝した時の三塁手で、東大でも三塁手として

東京6大学で活躍されましたことは、皆さまもご存じの通りです。

脇村氏の御祖母の正田きぬ様(美智子皇后陛下の御祖母)が全国優勝した際の感動を次のように詠まれております。

(朝日新聞横浜総局提供の始球式の写真: 略)

(正田きぬ著「松陰集」より)

湘南校優勝いはふ提灯の列にかがやく
まごのおもわは

ともに聞く野球放送、脇村とよぶことに
孫ら歓聲あぐる

湘南高校野球優勝せし時、
孫脇村春夫選手なりしかば

トピックス

「感謝と決意新たに」 鯉沼真理子氏(45回)

08・09年と湘南高校フェンシング女子はインターハイに出場しました。メンバーは同じです。09年は堂々のベスト16。最高の試合をし、コーチとして同行した私は感動感激を味わいました。コーチ冥利に尽きます。恩師の山田勉先生に音頭をとっていただき、現役・コーチは諸先輩の前でご挨拶、湘友会の暖かいご支援を沢山いただきました。感謝に堪えません。

現在部員数は日本一。すばらしい部員ばかりです。正規のコーチの他OBがボランティアでコーチしています。私も湘南でフェンシングを始め、健康で部活に関われることに感謝し、毎週湘南に通っています。秋の新人戦では女子は圧勝、男子はベスト4と健闘、男女一緒に団体インハイ出場が部の悲願です。
[1976年 モントリオールオリンピックに選手として出場。現在、ボランティアで母校フェンシング部のコーチを務めています。]



第52号 編集スタッフ (: 編集委員長)

略